

8月5日(月曜日)

○ 開会式 (10時20分~10時30分) 研究会会長挨拶、大会オリエンテーション

【10:30~12:10】

1-A 「言語発達遅滞の評価と指導」

東京学芸大学 藤野 博

言語発達遅滞には、自閉症スペクトラム障害(ASD)を背景とする場合や、音声言語のみに問題を示す特異的言語発達障害(SLI)などいくつかのタイプがあります。また語用性言語障害(PLI)という概念も近年、注目されています。本講義では言語発達遅滞のタイプを判断する方法、語彙・統語・語用や会話などの領域ごとに言語発達をアセスメントする方法や具体的な指導の方法・教材例などについて、最新の情報もまじえ基礎から解説します。

1-B 「吃音の基礎知識と新たな視点」

東京学芸大学 伊藤 友彦

吃音については科学的知見にもとづかない見方や考え方がときどき見うけられます。言語障害を専門とする教師は吃音について正確な知識を持ち、その知識を、担任教師や保護者、必要に応じては吃音がある子ども自身にも伝えることができなければなりません。この講義では、吃音の基礎知識と最新の知見をわかりやすく紹介し、これまでの研究成果をふまえた指導、支援のあり方について述べます。

1-C 「事例で学ぶ言語障害児教育」

東京学芸大学名誉教授 谷 俊治

医学部付属病院、教育系大学、障害者施設と三つの職場で関わってきた事例での体験をもとに言語障害児教育とは何かについての私見を述べようと考えています。その経過の中で学んだり発見したりしたことは、Cureという狭い意味での言語治療から、Care、さらにはCoreという広い意味での言語障害児教育の必要性を痛感したことです。

【13:20~15:00】

2-A 「聴覚障害児の評価と指導」

東京学芸大学 澤 隆史

聴覚障害の特性に関する基礎的事項を踏まえて、聴覚障害児の支援について特に言語発達を評価する際のポイントと具体的な評価方法について学びます。また対人関係の発達や心理面での支援について、主に通常学校での児童・生徒を対象とした発達上の課題や支援の際に留意すべき点について解説します。

2-B 「吃音指導の実際」

横浜市立八景小学校 綾部 泰雄
豊島区立池袋小学校 松村 玲子

提案者の一人が、永くことばの教室担任を務めた経験から、指導に当たって大事だと考えられることをお伝えします。吃音の問題、吃音児・者の困難などをお話して、次の事例紹介につなげます。

「吃音がある児童」といってもその状況は様々です。吃音指導に悩んだことや少し光が見えるようになった経緯も含めて、これまで出会ってきた児童への指導について報告し、意見交換したいと思います。

2-C 「WISC-IIIとWISC-IV~その解釈と活用」

船橋市立三咲小学校 大山 恭子

発達障害を持つ子どもに対して効果的な支援を行うためには、行動観察や検査等による適切な実態把握が不可欠です。そこで、WISC-IIIの検査結果の解釈の仕方を学び、得意な認知能力を活用した具体的な支援の方法を、LDを持つ子どもの支援を中心にご紹介いたします。また、WISC-IVについて、WISC-IIIとの違いを確認しながら解釈のポイントをご紹介いたします。

【15:20~17:00】

3-A 「構音障害児の評価と指導」

元西東京市立保谷小学校 中村 勝則

構音は正しい音を聞き分ける力と思い通りに動く発語器官の二つの車輪がぴったりかみ合って発達します。ですから、構音障害の指導は、聴覚的な弁別力と発語器官の運動能力を育てることが基本です。評価の視点、二つの能力の育て方、そして、正しい発音の運動の育て方の4つの領域を演習を交えて具体的にお話ししたいと思います。

3-B 「聴覚障害児の指導の実際」

東京学芸大学 澤 隆史

聴覚障害児の言語発達支援について、聴覚活用や口話、手話などのコミュニケーション方法や支援方法の変遷、様々な方法の長所・短所などを概説します。また特に読み書き能力を高めるための支援方法について、そのポイントと具体的な方法について説明します。具体的な事例について、活発なご質問等をお待ちしております。

3-C 「言語発達遅滞の指導の実際」

東京学芸大学 大伴 潔

本講座では、「語彙を育てる」「文を構成する」「文章で表現する」「効果的に伝える」といった言語領域の発達過程を概観しながら、適切な支援目標の立案と、興味を持たせる課題を通じた支援について考えていきます。言語評価法の例として学齢児版のアセスメント「LCSA」を取り上げ目標設定のあり方を考えるとともに、言語発達支援の効果的なアプローチについて検討します。

8月6日(火曜日)

【9:15~10:55】

4-A 「感情をコントロールできない子の理解と支援」

東京学芸大学 大河原 美以

本講座では、すぐにきれたり暴言をはいたりして不快感情をコントロールすることが困難な状態にある子どもをどのように支援したらよいのかを学びます。不快感情をコントロールする力は親子の関係の中でどのように育つのか、「問題」はさらに教室の中でどのように増幅されているのかなどを明らかにしながら、きれやすい子どもを効果的に支援するための教師の関わり方をお伝えします。

4-B 「側音化構音・口蓋化構音の指導Ⅰ～歪み音の理解と聞き取り」

帝京平成大学 山下 夕香里

側音化構音や口蓋化構音は歪み音なので慣れていないと聞き取りが難しく、指導で悩まれる先生方が多いのが現状です。いろいろなお子さんの発音の動画を見ていただき、聞き取りのポイントや舌の動きの観察法についてお話します。はじめての先生方も是非ご参加下さい。

4-C 「幼児のことばが育つ指導」

國學院大學 野本 茂夫

本講座では、幼児のことばの相談・指導を中心に取り上げます。事例を通して、幼児の「ことば」の育ちの特徴や傾向を、いわゆる「気になる子ども」問題、子どもが育つ環境の変貌、保護者の子育て不安などと絡めながら考察します。そして、幼児のことばの育ちを支援するには、子どもの育ちを総合的に理解する視点を身につけてかかわることや、人が育つ基礎・基本を丁寧に培う指導方法が大切になることを確認していきます。

【11:10~12:50】

5-A 「事例検討の意義と進め方」

有明教育芸術短期大学 羽田 紘一

言語障害児の指導を効果的に行うには、現在進めている指導が有効であるか否かを検証することが必要です。その検証が無いままに進める指導は時間の無駄にもなります。検証の方法としては、「事例検討・事例研究」を定期的に行なうことが有効です。この講座では、『短縮事例法』という実施しやすい方法を紹介し、演者が提示する事例を用いて演習を行ないます。

5-B 「側音化構音・口蓋化構音の指導Ⅱ～舌を平らにする方法」

帝京平成大学 山下 夕香里

側音化構音や口蓋化構音のお子さんは、発音時に舌の奥がもりあがり、前に出そうとすると細長く緊張します。舌を横に広げて平らに保ち、舌の横の感覚や舌尖のコントロール性を高めると音の指導がやりやすくなります。舌のトレーニングを実際に体験していただきたいと思います。鏡、舌圧子、ストロー(細いもの)、ペンライトなどをご用意ください。一緒に練習してみましょう。

5-C 「検査法の活用ー樹木画テストの導入と利用」

國學院大學 石川 清明

コミュニケーションに障がいのある子どもの指導で最近注目されている「描画テスト」から樹木画を取り上げ、これから指導に取り入れてみたいと考えている先生方を対象として、検査に関する基礎知識、実施上の留意点、結果の読み取り方についての基礎的事項など「入門編」に内容を限定して解説します。受講にあたって検査経験や予備知識は必要としません。鉛筆と消しゴムを持ってご参加ください。

【14:00~16:10】

6-A 大会講演「言語障害児教育に活かす交流分析」

桜美林大学 中村 延江

われわれはコミュニケーションがスムーズにいかないと相手の問題を考えがちですが、実は自分と相手との関わりの中に問題があるものです。まず自己理解を深め自分の性格や行動(反応)、考え方の特徴を把握することが大切です。交流分析は自己理解を助ける分かりやすい理論、技法です。その上で相手の特徴も交流分析的に理解し、その上で対人関係も考えてみると意外にうまくいく方法が見つかります。

6-B ワークショップ『「ことばの教室」の課題と明日からの取り組み』

國學院大學 野本 茂夫

ことばの教室について理解がない。ベテランの先生が退職し不安だ。一人担任で指導がこれだけ心配だなど、様々な課題を抱えて指導をしていることと思います。この講座では、教室の在り方や指導方法などを振り返り、参加者が少人数での対話を通して、自分の課題や教室の課題を考えます。対話をつなぐことで一人では気付けなかった問題点を明確にし、今後の取り組み方や対策を検討していきます。

○ 閉会式 次回大会のお知らせ

【16:10~16:15】